

第3分科会

「人類の英知の集積、図書館を活用するために」

ポプラディア出張授業の現場から

株式会社ポプラ社より図書館事業局事業推進室の飯田室長を迎えての体験型講演会。飯田室長は、同社の総合百科事典「ポプラディア」をかついで、年間100回、全国の小・中学校で出張授業を行っている。この日は、参加者が児童・生徒となって、実際のワークショップを体験し、それぞれの現場に持ち帰るというものだった。病後の飯田室長は来場できず、ポプラ社とSkypeをつないでの講演となったが、宮澤司書が進行を補った。

まず、6人ずつ掛けた8つの班それぞれに、ワークシートが配られた。ポプラディアで調べる問題が8問用意されている。答えを記入したら、問題のナンバーが見えるようにはさんでもどし、8問すべてに目を通す。全員で確認しあい、ちがう答えが出たら、話し合っただ筆する。

- 【1】緊急地震速報とは何か？
- 【2】オバマ大統領が、大統領になる前にしていた仕事は何か？
- 【3】アンヘル滝、バチカン、ピキニ環礁に共通する特徴は何か？
- 【4】三好市は何県にあるか？
- 【5】ゴサインターン山について、以下の問いに答えよ。
 - ①日本人で初登頂した隊の隊長はだれか？
 - ②①の人物の主なその他の功績は何か？
- 【6】チャーシューとは何か？
- 【7】セアカゴケグモのこわい特徴は何か？
- 【8】スピードガンとは何か？

以上を10分間で行った。5分を経過したころから、立ちあがって事典を交換したり、話し合う様子が見られるようになった。「7番に追記していいですか？」(5班、男性)などの声も聞かれた。1分の延長ののち、答え合わせが行われた。

問題は、ポプラディアであちこち調べながら、百科事典の使いかたをおぼえられ、たどりついた答えから発展して国際理解が深まるようになど、いずれも工夫されていた。飯田室長は、絶えず子どもに話しかけるように、やさしい言葉を使って解説をつづけた。その、かみくだいた表現や、グループワークの間合いの取りかたをそのまま、明日の現場で再現すればよいのだということが参加者にも充分伝わってきた。

調べ学習に意欲的に取り組めるようになるかどうかは、調べかたを知っているかどうかだにかかっている。その鍵をにぎるのが、「定義」「柱」「つめ」「見出し」「項目」などのことばだ。いっしょに百科事典を使いながら身につけさせるタイミングを、再現授業のなかから学ぶことができた。インターネットで調べる癖がついている子どもたちに、図書館の本には調べるルールがあるということをおぼえてほしい。講師の熱意も伝わってきた。

図書館の本は、物語や絵本だけではない。ポプラディアのように調べるときに役に立つ本もある。図書館には人類の英知が集まっている。じょうずに使えるようになろうと言いながら、飯田室長は、ご自身の病気のことを話された。「がん」だとわかったとたん、まず、やったのは「調べ学習」だった。「がん」の本はたくさんある。でも、そのなかから何を選ぶのか、テクニックが必要。「調べる力が生きる力になる」と、子どもたちに伝えてほしいともおっしゃった。

質疑応答では、松本盲学校の坂田先生が、「目の不自由な子どもたちのために、ポプラディアの定義の部分だけでも拡大してもらえないか。全部を点訳することはたいへんだが、大活字なら読める子どももいる」と要望した。飯田室長は、「定義の部分だけでも拡大してほしいという意見は、はじめて聞いた。検討します。今は、拡大コピーなどして、うまく使っていただきたい。ポプラディアネットは、読み上げをよりよく使えるように改良を考えていきたい」と回答。

講師が不在で、インターネットによるライブ授業という分科会だったが、進行は、かつて同じようにこの授業を体験された、宮澤司書ならではの配慮があり、すばらしかった。今では自分なりの工夫を加えて調べ学習を推進しておられる宮澤さんのおかげで、参加者も、無理なくワークショップに興じることができた。これから、それぞれの現場で、楽しい調べ学習がはじまる予感がする。

記録 文平玲子(市立須坂図書館)